

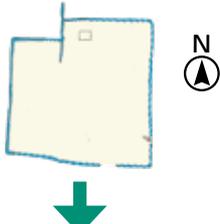


▲発掘された田谷白石台城
(写真提供：茨城県教育財団)

茨城県教育財団が発掘(遺跡名は白石遺跡)。正方形に巡る堀がくっきりと検出されました。現在は、県中央水道事務所(水戸浄水場)となり遺構は現存していませんが、入口付近に国田歴史学習会が設置した説明看板(白石城跡)が立っています。

▼田谷白石台城の変遷(茨城県教育財団『白石遺跡』より)
※縮尺・方位は同一。

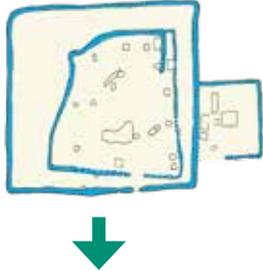
①鎌倉後期～南北朝時代



②南北朝～室町時代前期



③室町時代中期



④室町時代後期(戦国時代)



40m

発掘調査の結果、4時期の城の変遷(左図の①～④)が明らかになりました。鎌倉時代に誕生した田谷白石台城は、深さわずか20cmと、簡単にまたげられる

戦国時代の水戸では、佐竹氏と江戸氏が対立している状況でした。館から城への変化は、こうした軍事対立を反映したものと考えられています。田谷白石台城は現存していませんが、城の成長過程を実証した、貴重な学術的成果として全国的に知られています。

歴史文化財課 関口慶久

水戸の城さんぽ

問合せ／歴史文化財課(☎306・8132)

其の四

今回は城の「育ち方」を紹介
するぞいごさる!



田谷白石台城

成長する城

城は築城されてから、何十年もそのままというところはほぼありません。常に改修を繰返し、成長していきます。つまり、現在、目にすることができている縄張(遺構)は、長い年月をかけて育ってきた城の最終形態なのです。では、築城当時の姿はというと、それを解明するのはとても難しいとされています。

田谷白石台城(田谷町)は、そんな城の育ち方という難題が解明された、市内唯一の事例です。

田谷白石台城は、佐竹氏一族の白石氏の居城であると伝わる平城です。実態は長らく不明でしたが、城跡に浄水場を建設することがきっかけになり、平成2～3年に発掘調査が行われました。調査範囲は城まるごと。城の全面発掘は、現在でもなかなか例がありません。

溝に囲まれた、80m四方の規模(①)でした。農村開発のための館であったと推定されています。

ところがその後、様相が一変します。室町時代には110m四方(③)に、最終段階の戦国時代には165m四方(④)にまで急速に成長していくのです。

容易に城内に入れないよう、堀も深さ3m、幅7mと大規模化するとともに、内側には高さ1m超の土塁が巡らされました。築城時のびやかな「館」だったのが、最終段階では戦闘を目的とした、ものものしい「城」に変化していったことが判明したのです。

